

普及活動情勢報告（平成23年10月分）

安芸農業振興センター 農業改良普及課

情勢報告

安芸市で新嘗祭抜き穂式



刈り女さんによる刈り取りの様子

9月29日、安芸市大井地区でたわわに稔った‘黄金錦’の抜き穂式が行われた。

本年度は台風接近や大雨強風害等にみまわれたもののあまり倒伏もせず、また献穀者、関係者の労苦が実って病害虫の被害もなく上々の出来映えでこの日が迎えられた。

神事では、献穀者の所属する地元東川酒米研究会も臨席した。式のクライマックスである刈り女の手刈りに出席者一同は見とれていた。

今後、振興センターは刈り取った米を関係者ともども手で選別し、10月下旬の献穀へと協力、指導していく。

ゆず市場取引懇談会開催（10月4日）



新宿ベジフルからアドバイスを受ける生産者

JA土佐あき柚子部は、卸5社（東京2、名古屋1、大阪1社）のユズ販売担当者を招いて取引懇談会を吉良川支所で開催し、生産者約70人が参加した。

会議では、出荷規格・生育状況（現地）の確認、販売状況等の意見交換等を行い、生産者からは販売全般や貯蔵出荷の展望等の質問があり、また、市場からは、選果選別へのアドバイス、震災後の消費動向、今年の冬至販売への意気込み等の情報提供があった。

振興センターからは販売促進について、店舗を絞って継続的に活動を行い、消費拡大につなげる展開を提案した。今後、役員会等の活動計画の検討時にも実現に向けて具体策を示していく。

集落営農先進地視察研修の開催（10/6 四万十町）



見付権七営農協議会での研修の様子

振興センターでは、集落営農推進の一環として、県内でも早くから集落営農に取り組んできた四万十町への先進地視察研修を開催したところ、集落営農に関心のある集落代表者や集落営農組織の役員、JA、役場の担当者など12名が参加した。

当日は、JA四万十の集落営農支援対策の概要や桧生原営農組合の機械共同利用の取り組み、見付権七営農協議会での水稻作業受託の取り組みなどについて研修し、参加者は組織化に向けた合意形成手法や組織運営における課題やポイントなどについて理解を深めた。

今後は関係機関とともに、希望集落における組織化や既存組織の活動のレベルアップなどを支援する。

かっぱ市リニューアルオープンに向けて！



活動計画を作成に向けて喧々囂々

芸西村かっぱ市は、23年度農業創造人材育成事業に参加し、運営体制や加工品づくり等について検討している。10月6日に役場の会議室で、かっぱ市、村商工会、役場、振興センター10名が集まり、事前に研修した長崎県や十和村等他地区の活動や考え方を参考に、3年間のかっぱ市の事業計画書を作成した。また、かっぱ市の課題、今後に向けた体制等話し合った。「‘芸西村’を環境保全型農業とセットで売っていかねばならない。」「生産部会を品目別に作ろう。」「品質管理やPRの仕方を考えよう」などの意見が活発にでた。

今後は、リニューアル後のかっぱ市の運営や販売について支援していく。

室戸市農業研究会総会で新害虫講演会を開催



講演会の様子

室戸市では、施設野菜を中心にこの2年間で広く天敵利用技術が普及した。県内事例からも今後は新害虫の発生が予想されるため、振興センターでは室戸市農業研究会総会（10/12）と併催して県内で問題となっている新害虫に関する講演会を実施した。県の病害虫専門技術員を講師として施設園芸農家を中心に45名が参加し、新害虫と天敵の相性や農薬の利用方法について講演を熱心に聞いた。また、講演会終了後も天敵の利用方法について活発に意見交換を行っていた。

振興センターは、今後ともJAと連携して天敵利用技術の向上を図るとともに、新害虫の発生活消長や病害対策も併せて情報提供を行っていく。

ゆず青果目慣らし会開催 [10月17日(畑山)、18日(北川)、19日(東川)]



果実品質を確認する生産者
(東川支部)

安芸地区のユズの生育は遅れ気味でしたが10月に入り、定期的な降雨で肥大も順調となり、出荷が安定してきた。この時期、冬至・加工用出荷に向け各支部で目慣らし会を開催したところ約300人の生産者が出席した。近年、ゆず皮の需要増から加工用出荷規格が増え(AとBの二つに)、生産者はこはん症、黒点病、傷等の規格毎の程度の違いを真剣に確認していた。

振興センターからは衛生管理、農作業事故防止等のGAPの取り組みを指導した。今後は青果出荷率向上を目的に、剪定講習会を年明けに開催する予定です。